NIPPON GOOD PARTS NGP News
2025年12月19日発行
■発行責任者／佐藤幸雄 ■編集・制作／(株)プロトリオス
■発行／(株)NGP 東京都港区港南2-12-32　サウスポート品川4F
TEL03(6705)1212
2025 12 月号
全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報
No.417

クレーム発生率が史上最低値を再更新

日々の改善が品質を押し上げ、今年度は0.6%に！

NGPは1985年の創設以来、「お客様第一」の理念のもと、高品質リユース部品の供給にこだわり、品質向上の取り組みを積み重ねてきました。

昨年度、NGP全体のクレーム発生率は過去最少の0.7%を記録しましたが、今年度はその記録をさらに更新し、ついに「0.6%」という新たな史上最低値を達成しました。これは、クレーム集計を開始して以来、最も優れた数値であり、組織全体での品質向上への意識強化の成果が明確に表れたものです。

■表彰制度の拡充が組織全体の品質意識を押し上げる

品質向上に対する意識をさらに高めるため、NGPでは昨年度から表彰制度を拡大しています。

これまでの「優秀発送点数部門（平均以上の発送点数の組合員）」に加え、新たに「堅実発送点数部門（平均未満の組合員）」を創設し、発送規模を問わず全組合員が公平に評価される仕組みへと進化させました。表彰金額も増額し、支部単位での取り組みが一段と活性化し、「良い取り組みを学び合う」切磋琢磨の意識が高まったことが、組織全体の品質向上に大きく寄与し、制度拡充から2年目となる今年度、その効果は確かな成果となって現れています。

■日々の改善が「0.6%」を実現

NGPでは、クレーム発生率を毎月集計し、各支部の社長会や実務担当者会議で共有しています。発生率が高い企業へは改善ヒアリングを行い、発生率が低い企業の好事例は積極的に共有することで、全社的な品質底上げを図っています。

こうした継続的な改善活動が、今年度の「クレーム発生率0.6%」という史上最低値の達成につながりました。

表彰式の様子

低クレーム発生率 支部表彰

中四国支部

クレーム発生率
0.45%

小林信夫理事長（右）と中四国支部担当・弘内英一郎理事

中四国支部担当・弘内英一郎理事 受賞コメント

この度は、昨年度に続き本年度もこのような賞を頂戴し、大変光栄に存じます。

中四国支部では、毎月の月例会で全社のクレーム発生率を丁寧に振り返り、課題が見られる企業には状況を細かく確認したうえで、改善の方向性を一緒に考える取り組みを続けています。一方で、発生率が特に低い企業の取り組みは積極的に共有し、支部全体の底上げにつなげてまいりました。

また、3ヵ月ごとの実務担当者会議においては、現場で効果のあった改善策や工夫を惜しみなく持ち寄り、各社が実践しやすい形で共有することを心がけています。

こうした積み重ねが今年度の0.45%という過去最低の数値につながったと考えており、支部として大きな励みになりました。

今後も「安心して使える部品づくり」というNGPの使命を胸に、より高い品質を目指して取り組んでまいります。

topics ジャパンモビリティショー2025、開催

社会課題やユーザーニーズの変化に応える未来のモビリティの姿を提案

10月30日～11月9日の11日間（プレスデーの10月29日を含むと12日間）、東京ビッグサイト（東京都江東区）にて「ジャパンモビリティショー2025」が開催されました。

「ワクワクする未来を、探しに行こう！」をコンセプトとして開催された同ショーには、自動車産業の枠を超え、IT・通信・エレクトロニクス産業や、スタートアップ企業など過去最多となる合計522の企業・団体が参加しました。出展各社からは、未来のモビリティの姿及びその活用による社会と生活の変化が提案されるとともに、社会課題である地球環境問題の解決に向けた様々な取り組みや技術が紹介されました。

スズキ　2026年度内の量産化を目指す軽乗用BEVのコンセプト「Vision e-Sky」（写真）を世界初公開。また、エタノール燃料を活用した「フロンクス FFVコンセプト」、酪農廃棄物から精製したCBG（Compressed Biomethane Gas：圧縮バイオメタンガス）で走行可能な「ビクトリス CNG/CBG仕様」など、各種環境技術採用車を出品。ユーザーが住む国と地域のエネルギー事情に応じたカーボンニュートラル実現の選択肢を広げていく姿勢を強調した

スバル　BEVベースの「Performance-E STIコンセプト」（写真）、ICE（内燃機関）をベースとした「Performance-B STIコンセプト」の2台のコンセプトモデルを世界初公開。併せて2026年春の発売を予定している新型SUV「Trailseeker（トレイルシーカー）」の日本仕様も公開。トレイルシーカーは、一充電走行距離700km以上（FWDモデル）、0-100km/h加速が約4.5秒（上級グレード）などの開発目標値が示されている

ダイハツ工業　FRを採用した軽オープン「K-OPEN（コペン）」（写真）、新開発となる軽自動車用「e-SMART HYBRID」を搭載したストロングハイブリッドモデル「K-VISION」、1（前）＋2（後）シートを採用し、全長2,200×全幅1,295×全高1,680mmと軽自動車未満のサイズに抑えた新モビリティ「ミゼットX」、完全自動運転による車両の呼び出しなどに対応した軽自動車サイズの新世代商用車「KAYOIBAKO-K」など多様なコンセプトカーを展示

トヨタ自動車　トヨタ自動車は、トヨタ、レクサス、センチュリーの各ブランドでブースを出展。各ブランドの発表の中でも特に注目を集めたのが、ブランドとしての独立が発表されたセンチュリー。公開された2ドアのクーペモデル（写真）は、見た目はクーペだがあくまでショーファーカーとして作られており、運転席側は前後2席、助手席側は1席の3人乗り仕様。助手席側は前後に広大なスペースが確保され、フルリクライニングも可能である

日産自動車　2026年夏発売予定の新型エルグランド（写真）を公開。4代目となる新型「エルグランド」は、第3世代となるハイブリッドシステム「e-POWER」と進化した電動駆動4輪制御技術「e-4ORCE」、走行シーンに応じて4輪の減衰力を可変するインテリジェントダイナミックサスペンションを採用している。加えてプレスカンファレンスでは、現在中東市場で販売するSUVモデル「パトロール」を2027年度前半に日本市場へ投入することが発表された

本田技研工業　同社が次世代EVと位置づける「Honda0シリーズ」の新たなSUV「Honda0 α」（写真）を世界初公開。同車を含む0シリーズの3モデルは、2027年度中の国内販売が予定されている。併せて公開された小型EV「Super-ONE Prototype」は、仮想有段シフト制御とアクティブサウンドコントロールシステムの連動により、有段変速機を備えたエンジン車のようなサウンドとシフトフィーリングを演出する「BOOSTモード」を搭載

マツダ　「MAZDA VISION X-COUPE」（写真）と「MAZDA VISION X-COMPACT」を世界初公開。X-COUPEは、2ローター・ロータリーターボエンジンとモーター、バッテリーを組み合わせたPHEVシステムを搭載しており、モーターのみで160km、エンジン併用で800kmの航続距離を実現。さらに、微細藻類由来のカーボンニュートラル燃料とCO_2回収技術を組み合わせることで、走るほどに大気中のCO_2を削減するというビジョンを示した

三菱自動車工業　電動クロスオーバー SUVのコンセプトカー「MITSUBISHI ELEVANCE Concept」（写真）を世界初公開。カーボンニュートラル燃料に対応したエンジンと大容量の駆動用バッテリーを搭載したPHEVモデル。フロントには操縦安定性を高めるインホイールモーター、リヤには駆動力の高いデュアルモーター AYCを搭載するクアッドモーター 4WD式の独自四輪制御技術「S-AWC」を採用しており、様々な路面状況や走行シーンに対応する

BlueRebirth協議会　使用済み自動車の自動精緻解体を起点として質の高い再生原料を大量に抽出し、それをリサイクルすることで環境価値の高い自動車に生まれ変わらせるCar to Carバリューチェーンの概要及び再生原料製造業、再生材料製造業、自動車製造業それぞれの役割などを紹介。ブース内では自動車の製造→使用→分解→再資源化→製造という循環モデルを学ぶことができる子ども向けワークショップが展開され、多くの来場者でにぎわった

topics

自検協、令和７年版「わが国の自動車保有動向」を公開

乗用車の保有台数が３年連続で増加
平均車齢と平均使用年数も長期化傾向を示す

自動車検査登録情報協会はこのほど、令和７年版「わが国の自動車保有動向」を公開しました。

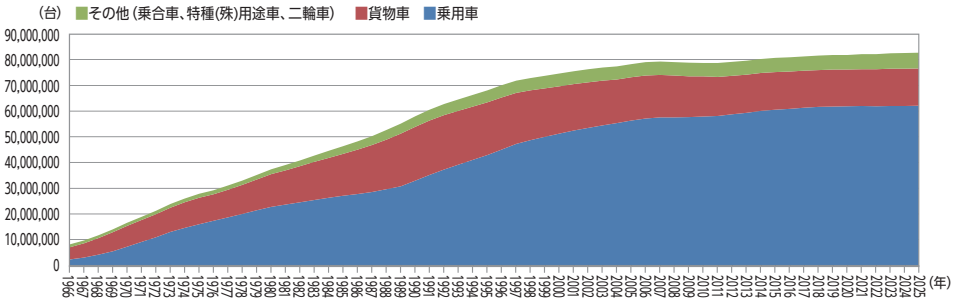
それによると、2025年３月末時点での軽自動車を含む自動車保有台数は82,699,840台で、前年同日時点から131,167台増加していました（**グラフ１**）。

保有台数の推移を用途別に見ると、乗用車は同比77,243台増の62,056,197台、貨物車は同比3,430台減の14,519,830台、乗合車は1,329台減の208,774台、特種（殊）用途車は同比13,363台増の1,834,287台、二輪車は同比45,320台増の4,080,752台となりました。一方、電動車の保有台数を見ると、PHEVを含むHVは同比1,119,398台増の13,945,137台（**グラフ２**）、EVは同比25,414台増の221,889台（**グラフ３**）といずれも増加していました。

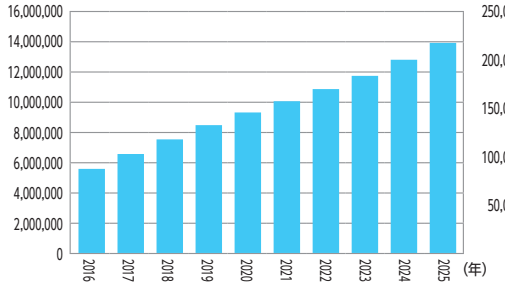
平均車齢*1（軽自動車を除く）は、乗用車が9.44年で前年より0.10年長期化し、33年連続して高齢化するとともに、31年連続で過去最高齢を更新しました（**グラフ４**）。車種別では、普通乗用車が8.72年と前年より0.03年長期化、小型乗用車は10.34年で0.24年長期化しています。貨物車は同0.15年長期化し12.13年となり、33年連続での最高齢更新となりました。

平均使用年数*2（軽自動車を除く）は、乗用車が前年から0.03年長期化し13.35年で、４年ぶりに増加しました（**グラフ５**）。車種別では、普通乗用車は12.74 年で同0.01年短期化、小型乗用車は13.97年で同0.09年長期化しています。一方、貨物車（軽自動車・被けん引車を除く）は16.29年で同0.21年長期化し、13年連続で増加しています。

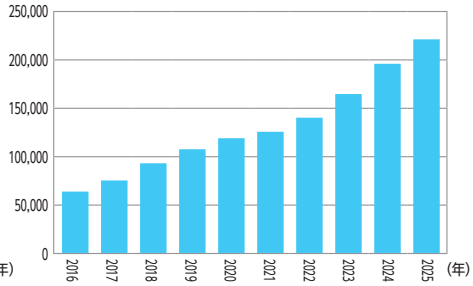
グラフ1　車種別の自動車保有台数推移



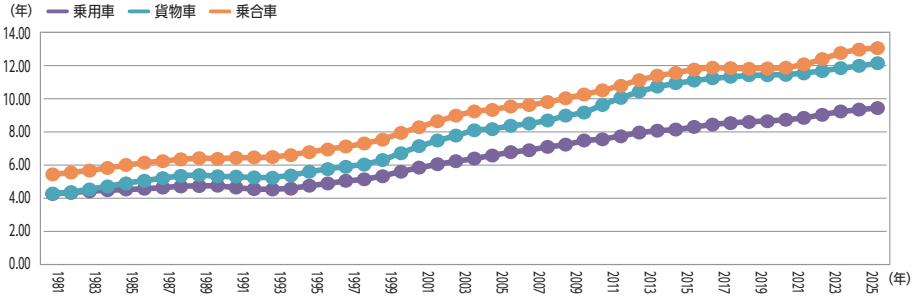
グラフ2　ハイブリッド車の保有台数の推移



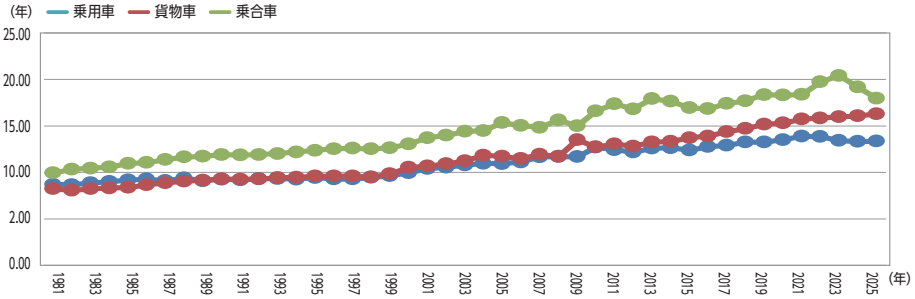
グラフ3　電気自動車の保有台数



グラフ4　平均車齢推移の推移



グラフ5　平均使用年数の推移



*1 平均車齢：国内でナンバープレートを付けている自動車が初度登録してからの経過年の平均。
*2 平均使用年数：初度登録年度ごとに１年前の保有台数と比較し、減少した車両を１年間に抹消された車両とみなして、国内で新規登録されてから抹消登録するまでの平均年数を算出。ただし、減少台数には一時抹消も含まれるため、自動車が完全にスクラップされるまでの期間とは若干異なる。

NGP 今月のCO_2削減量

リサイクル部品利用に伴うCO_2削減量

令和７年10月：**2,062t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）と、リビルト部品の３部品を対象に算出した数値です。

リターナブル梱包材利用に伴うCO_2削減量

令和７年10月：**0.4t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO2排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員
かわら版

NGP、第19回香川県豊島環境保全・再生活動を実施

産学連携で、豊島本来の植生回復へ向けて取り組む

NGP協同組合は11月11～12日の2日間、香川県豊島で環境保全・再生活動を行いました。第19回目となる今回は、前回に続きNPO法人瀬戸内オリーブ基金の活動のひとつである“ゆたかなふるさと100年プロジェクト”の一環として、岡山大学大学院環境生命科学研究科の嶋一徹教授との産学連携による豊島植生回復活動にボランティアとして参加・協力しました。

今回は、組合員と本部職員11人に加え、一般社団法人日本トラックリファインパーツ協会（JTP）から5人が参加し、合計16人で各種活動に臨みました。NGPとJTPは「大型自動車リサイクル部品の環境負荷低減効果に関する産学共同研究」に取り組んでおり、同じ自動車リサイクル事業者として豊島の環境保全活動の力になりたいとの想いから、前回より一緒に活動をしています。

岡山大学との産学連携による植生回復活動

今回は、前回の作業に引き続き「見本園」の整備、植樹を行いました。見本園は、産業廃棄物不法投棄現場を見渡すことができる展望台まで続く階段横にあり、かつて豊島に広がっていた自然植生を再現する場所となっています。

元々この場所は、不法投棄の影響で植生が崩壊し、地面が露出した状態であったため、斜面の崩落を防ぐ目的で植えられた外来種のコマツナギが繁殖しています。不法投棄が行われる前とは異なる植生であり、わずか数種類の植物しか生育していない多様性が極めて乏しい状態です。嶋教授は「見た目は緑が回復しても、豊かさは回復できていません」と、豊島本来の植生を回復することが大切だと教えてくれました。

今回は、元々豊島に自生していた「アラカシ」、「トベラ」、「クスノキ」、「クロガネモチ」、「ネズミモチ」の5種類を合計30本植樹しました。そしてその後、豊島の植生が根付いている土地から種子の混ざった土を運び、今回植樹した場所に撒きました。これにより、見本園を豊島本来の植生により近づけることができます。

また、岡山大学が豊島の植生回復の研究をしている区画の整備も行いました。この場所は2024年に、見本園と同じように豊島の植生が根付いている土地から種子の混ざった土を運び、撒いた場所です。その時の種から芽が出て育ち始めており、その芽の育成を促進させるため、陽の光を妨げる雑草を取り除きました。育ち始めている植物の芽も刈り取ってしまわないように印をつけながら、手作業で行いました。

これらの活動はとても地道で、人手も時間もかかる作業です。このプロジェクトを通じて、自然を壊すのは簡単ですが、元に戻すにはとても長い時間がかかること、現在の植生を単に放置しているだけでは「元通りの自然」を回復することができないことを学びました。

「見本園」への植樹の様子

不法投棄現場の見学

今回、活動に初めて参加した4人のメンバーに対し、「豊島事件」の内容と環境保全・再生活動の意義について正しく理解してもらうため、見学会を実施しました。不法投棄事件を起こした業者の元事務所を活用した「豊島こころの資料館」では、廃棄物対策豊島住民会議の石井亨氏より「豊島事件」の歴史や悲惨な状況、住民たちの壮絶な闘争の歴史、熱い思いについての説明を聞き、当時の写真や産廃（シュレッダーダスト）の剥ぎ取りを実際に見ることで、「豊島事件」と不法投棄現場の現況について学びました。

豊島で起きた不法投棄事件による環境被害は、まだ完全に回復できていません。NGPは今後も瀬戸内オリーブ基金、岡山大学と協力して、「豊島事件」の悲劇を二度と繰り返さないために、環境保全・再生活動と3Rの大切さを後世に伝える活動に取り組んでまいります。

NGPは今後も豊島の環境保全・再生活動に取り組んでまいります

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
南関東	株式会社マルトシ青木	会社代表	代表取締役　青木金也	2025年11月17日
南関東	株式会社ユピック	会社代表	代表取締役　渡邊俊一	2025年1月23日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局
〒108-0075　東京都港区港南2-12-32　サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208　FAX:03-6705-1209
https://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP
〒108-0075　東京都港区港南2-12-32　サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212　FAX:03-6705-1201
https://www.ngp.co.jp/